

令和 7 年度 大学塾 第 3 ステージ 開催案内

幕末の真実を探る！



マシュー・ペリー提督

1853 年のペリー来航から 1867 年の大政奉還の前後、30~40 年間を幕末といいます。「歴史は為政者によってねつ造される」と言われます。
幕末は勝利者である倒幕勢力によってわい曲されていないか？
新しい視点から幕末の真実を探ります。



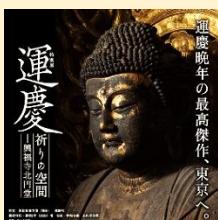
征夷代將軍在任時
第 15 代 德川慶喜

毎回土曜日 午後 2 時～午後 4 時

講 師：穂高 健一 氏 小説家・写真家・登山家 近著：「八月十日よ、永遠なれ」など
日 時：12 月 2・9・23 日（火曜日）全 3 回 午後 2 時～4 時
会 場：足立区生涯学習センター（学びピア 21 内）5 階 研修室 1
講義内容：
第 1 回 ペリー来航の目的は学術調査だった
第 2 回 大政奉還 慶喜と討伐勢力の思惑
第 3 回 錦の御旗と明治新政府

令和 7 年 10 月 月例会 – 東京国立博物館 – 10 月 18 日（土）

10 月は、会員の知見を高める学習機会として、上野の東京国立博物館へ行ってきました。紅葉にはまだ少し早いと思われましたが、イチョウの葉は黄色く色好き始め銀杏が地面に落ちて、もうすぐ秋という感じです。国博では、奈良・興福寺の北円堂（ほくえんどう）の本尊、鎌倉時代を代表する仏師・運慶晩年の傑作として広く知られている国宝 弥勒如来坐像（みろくによらいざぞう）と両脇に控える国宝 無著（むじやく）・世親菩薩立像（せしんぼさつりゅうぞう）が修理完成を記念して弥勒如来坐像の約 60 年ぶりの寺外公開が行われました。本展は、弥勒如来坐像、無著・世親菩薩立像に加えて、かつて北円堂に安置されていた可能性の高い四天王立像を合わせた 7 軀の国宝仏が一堂に展示され鎌倉復興当時の北円堂内陣の再現を試みる奇跡的な企画展として、至高の空間をご堪能いたしました。



令和7年度 大学塾 第2ステージ 開催報告

生誕100年 三島由紀夫の生涯と文学散歩

「生誕100年三島由紀夫の生涯と文学散歩」は、9月6日、13日、20日、27日の土曜日 足立区生涯学習センターで開催されました。

講師は大沢正明氏（江戸文化歴史検定一級、奈良まほろばソムリエ検定ソムリエ級、京都観光文化検定試験一級）延べ受講者は89名でした。



1925年の誕生から2025年は生誕100年となるにあたって、鬼才「三島由紀夫」の45年人生とその文学は何だったのかを探り三島が綿密に取材して残した畢生（ひっせい）の大作『豊饒の海』（全4巻）の舞台を訪ねました。



I. 誕生から処女作まで

大正14年（1925年1月14日）東京四谷に平岡梓と倭文重の長男として誕生。本名平岡公威。2階で両親が育てるのは危険という口実で、両親から離され1階の自室で祖母が養育。祖母は坐骨神経痛があり、しばしばヒステリー症状を引き起こす。4時間ごとに母親を2階から呼び授乳だけさせたという。祖父、定次郎は福島県知事から権太郎長官、父梓、は農林官僚元水産局長で、孫、公威と東大法学部卒業で、官僚エリートの家系である。

6歳（昭和6年）学習院初等科入学。皇族・華族中心の学習院は、大名の系譜を持つ祖母の意向で入学できた。顔色が蒼白で、アオジロと呼ばれていた。

11歳（昭和11年）授業1時間目2,26事件が起り帰宅になる。

12歳（昭和12年）学習院中等科に進学。渋谷区大山町に転居。祖父母の元から離れ、両親と暮らす。

16歳（昭和16年）学習院の文芸部「文藝文化」に『花ざかりの森』を掲載。ペンネーム 三島由紀夫を使用する。12月太平洋戦争が始まる。

II. 戦中からその地位の確立まで

19歳（昭和19年）本籍地兵庫県で徴兵検査、第二乙種合格する。

9月 学習院高等科を首席で卒業。10月東京帝国大学法学部法律学科に入学。

同月『花ざかりの森』七丈書院より刊行。

20歳（昭和20年）2月入営通知を受け兵庫で、入隊検査を受けるが風邪をこじらせ、医師が肺浸潤と誤診し即日帰郷となる。8月終戦。10月妹、腸チフスで死去。

21歳（昭和21年）1月、「中世」「煙草」の原稿を携え、鎌倉の川端康成を訪れる。

22歳（昭和22年）11月高等文官試験行政科に合格。東京大学法政部法律学科卒業し大蔵省に入省。

23歳（昭和23年）大蔵省を退職。「盜賊」出版。

以降24歳から26歳「仮面の告白」「純伯の夜」「青の時代」「禁色」などを刊行。

29歳（昭和29年）「潮騒」ベストセラーになる。10月に、東宝で映画化。11月、歌舞伎座で、ドナルド・キーンと会い、以後親交を深める。

31歳（昭和31年）「金閣寺」「永すぎた春」を連載開始。それぞれ10月、12月刊行

33歳（昭和33年）川端康成の媒酌で、6月杉山瑠子さんと結婚。31歳8月からのボクシングを止めて、10月から剣道を始める。

34歳（昭和34年）大田区にビクトリア朝コロニアル様式風の豪邸を建て、引越す。

35歳（昭和35年）「宴のあと」「お嬢さん」を連載。大映映画「からつ風野郎」に主演。11月夫人同伴で世界一周旅行に出る。（1月帰国）

36歳（昭和36年）「憂国」「獣の戯れ」を刊行。江戸川乱歩原作「黒蜥蜴」の脚色公演。

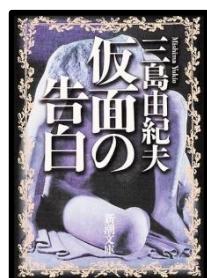
III. 世界の三島文学の完成と死まで

41歳（昭和41年）11月「春の雪」脱稿。

42歳（昭和42年）1月「奔馬」を翌年8月まで新潮社に連載開始。2月川端康成、石川淳、阿倍公房らと中国文化大革命に対する抗議アピールをする。

4月陸上自衛隊に5月まで体験入隊する。9月インド政府の招きで取材旅行。

三島由紀夫は、（昭和38.40.42年他）ノーベル文学賞候補に5回推薦されている。



（次ページに続く）

令和7年度 大学塾 第2ステージ 開催報告

生誕100年 三島由紀夫の生涯と文学散歩

(前ページより続く)

43歳（昭和43年） 3月大学生有志30数名と自衛隊に体験入隊し、血判書をつくる。堤清二を介して制服を作る。4月「黒蜥蜴」東横劇場で公演（出演、丸山明宏・天友茂）。7月「文化防衛論」「反革命宣言」を発表し、戦後日本社会の憂いや批判を鮮明にする。9月「暁の寺」を連載

開始。10月「楯の会」を発足。40数名の会員集合。川端康成がノーベル賞受賞

44歳（昭和44年） 「春の雪」「奔馬」を刊行。3月、陸上自衛隊に楯の会会員27名と共に体験入隊する。5月東大全共闘主催の討論会に招待される。8月映画「人と斬り」に出演。

45歳（45年） 3月陸上自衛隊に楯の会会員30名を連れて体験入隊する。

7月「天人五衰」連載開始。

10月19日楯の会4人と最後の記念撮影をする。11月4日から3日間、最後の自衛隊、体験入隊する。11月14日新潮社の新田氏に全作品、写真、テープ原稿などを含む完全な「三島由紀夫全集」を依頼する。

24日夜、ドナルド・キーン氏に「豊饒の海」の英訳で出版の依頼文章を寄稿する。

25日朝、「天人五衰」の最終回原稿を編集者へ渡す。市ヶ谷自衛隊駐屯地で天皇陛下万歳を三唱し自刃。

IV.『豊饒の海』の舞台を訪ねる

「春の雪」：松枝侯爵邸、学習院血洗いの池、終南別業（現鎌倉文学館）
天祖神社、帶解駅と円照寺。

「奔馬」：大阪地方裁判所、狭井神社と三輪神社、率川神社、白山神社。

「暁の寺」：カリガート寺院・ベレナス・アジャンタの洞窟礼拝堂。

「天人五衰」：三保の松原と帝国信号通信所、円照寺。

テーマは、①輪廻転生 ②唯識 ③20歳 ④夢 ⑤肉体 ⑥覗る。



本講座へのアンケート

- 三島由紀夫を全く知らなかつたので三島由紀夫の年表を詳しく説明頂き最後の作品で三島由紀夫の人となりがイメージできました。
- 非常にわかりやすい講義でした。三島作品を読んでみようと思ひます、特に「豊饒の海」、レジメが大変立派です。
- 三島由紀夫の生き立ち、素顔など始めて知る事実も多く勉強になった。また彼が大変な活動家でありいろんな分野に顔を出し映画出演までしていたのに驚いた。ただ憲法改正を唱え「楯の会」を結成し最後は市ヶ谷で割腹自殺で一生終えたことには、なぜそうしなければならなかつたのか理解できなかつた。
- 祖父は三島と同じ年の大正15年生まれでした。当時の社会や若者の感性を知ることができて良かった。
写真を多く見せて頂いたので立体的に理解することができました。今まで三島の本を読んだことがありませんでした、この講座をきっかけに「仮面の告白」「金閣寺」「春の雪」を読みました。すばらしい読書体験となりました。
- とても良かったです。三島由紀夫をあまり興味がなかつたのですがこの講座を機に読んでみたいと思いました。
- 名前だけは知っていたが、あとは何も知らなかつたが、この講座で生誕から死まで学べて、ほんとうによかったです。これから小説も読んでいきたいと思います。

担当者所感

- 大沢講師の多くの写真により作品の舞台がさらには奥行きをもって楽しめました。
最終ページの本多と聰子の会話が美しい。（過去とは別々に無に帰しつつある現存もある。記憶と「天人五衰」、夢幻、つまり現実に在ったこと無かつたことと一体どこに違いがあるのだろう）
「豊饒の海」とは、“月にある海”とよばれるクレーターで、カラカラの砂漠ということです
- 三島由紀夫は、昭和の激動時代そのものを生きた敗戦、安保騒動、経済的繁栄期の社会に対して開かれた小説家だった。数多い作品は三島美学そのもの、完璧な構成で計算されていて、まるで音楽(協奏曲)のよう圧倒される。私はその三島の文学や生き方に強く感動させられました。

(渡辺秀子)

あだちサークルフェア 2025 出展報告

足立区内で活動するサークルや団体が集まり日頃の活動の成果をステージ発表や作品展示で披露するイベント

「あだちサークルフェア 2025」10月11日（土）と12日（日）の2日間にわたりて足立区生涯学習センターの講堂・研修室を会場として開催、足立区内の地域学習センター登録団体・地域で活動するサークルなど、今年は36の団体が集まり日ごろの活動の成果をステージや展示で披露し地域の魅力づくりや絆づくりを行いました。イベントでは、明るく元気いっぱいのステージ部門、日頃鍛えた腕前を魅せる作品展示、どなたでも楽しめる体験コーナーのほかに、青空ステージや物品販売、ゲームなど盛りだくさんの内容でした。

（「あだちサークルフェア」は、2009年、足立区で活動する団体と、足立区生涯学習センターとで実行委員会が構成され、地域で活動する様々な団体の発表の場としてイベントを運営しています）。

今年、開催15回目を迎えて、地域のちから推進部生涯学習支援課長 江連嘉人氏、実行委員長 林太一氏、生涯学習センター所長 平野昌暁氏のご挨拶とテープカットで開会が宣言されました



同時開催の「あだち区民まつり AFesta2025」も荒川河川敷「虹の広場」で開催され、初日は雨天でしたが、2日目は晴天に恵まれ大変多くの方が会場に訪れ、各展示ブースは長い行列となりました。



区内で活動する団体・サークルが作品展示や発表など日頃の成果を披露。子供向の各種体験コーナーもあり、講堂のステージでは多くのサークルの舞台発表があり1年間の活動の成果を発表して居ました。



講堂ギャラリーでは、楽学の会の活動内容、令和7年度の大学塾講座の紹介や活動風景の写真などをパネルで展示説明。会報誌や講座チラシの配布。積極的に「楽学の会」をアピール“急募”致しました。



令和7年 10月 運営委員会 報告・連絡

日 時：令和7年10月1日（水）14:00～16:00
場 所：生涯学習センター：5階 研修室4

代表挨拶

皆さまご苦労様です。この度、当会では以前に顔なじみの神戸さんが居られますが、千住にお住いの古川映彦様が入会されました。当時は現役で勤務されて居られ多忙でしたが、自由な時間帯もできたため、改めて入会頂けることとなりました。有望な戦力として大いに歓迎致したいと思います。

10月は先月の“三島由紀夫の生涯と文学散歩”4回講座に引き続き、“千住宿開宿400年講座II”が、9日より4回講座で開講されます。4回目は参加者が多いため午前、午後の2回に分けて街歩きとなります。運営スタッフの体調に合わせた役割のご協力をお願ひいたします。

議 事

（1）情報交換

- 古川映彦氏 入会：9/20 来場、当会の活動状況説明、三島由紀夫講座運営スタッフ担当頂いた

（2）月例会開催について

- 9月17日（水）あだちサークルフェア2025 出展内容検討
- 10月18日（土）会員の学習会 上野 東京国立博物館
- 11月19日（水）新入会員 古川さんの活動報告

（3）あだち区民大学塾：講座企画会議：10/1（水）、11/4（火）、検討会議：10/15（水）、11/19（水）

- 9月 生誕100年 三島由紀夫の生涯と文学散歩 講師 大沢正明氏

受講者 26名、延べ受講者 89名、 9月6・13・20・27（土）研1

- 10月 千住宿400年講座II：前回抽選落選者へ案内ハガキを54枚 応募者45名 講師 矢内信悟氏
10月9・16・23・30（木）研1、30日午前・午後 現地学習、あだち朝日へ掲載（9/5号）

- 12月「幕末の真実を探る！」講師 穂高健一氏、
12月2・9・23（火）研1

- 2月 NHK大河「豊臣兄弟」関連 豊臣秀長&日本史のナンバー2 講師 跡部 蛮氏
2月14・21・28（土）研1

- 3月 西洋絵画150年講座 講師 島田紀夫氏 決定。令和7年度 計9講座（千住宿400年2回含む）
＊令和8年度大学塾講座の検討を9月より開始した。まずは令和8年度前期5講座程度検討する。

8年度前期の研修室 申込は12月～12月まで確定する

候補案：日本経済：柴田氏、宮沢賢治：赤田氏、京都関連講座（平安京から豊臣秀吉）：大沢氏、
古文書（豊臣秀吉他）：高梨氏ほか

（4）サークルフェア2025 10月11日（土）・12日（日）開催

- パネルに貼る資料、写真の確認を実施した：10/1（水）15:20～16:00
- 会場でパネルに貼付け：10/10（金）10:00～
- 運営スタッフ募集：当日は9:30集合、10/11～17:30、10/12～17:00
- 場所はホワイエの入り口側、パネル6枚確保、
- 案内パンフレットに楽学の会の広告 出稿（2枚）、
- 来場者へ積極的に会の紹介、入会勧誘する

（5）各部局からの報告および提案

- ①学習支援部：12月「幕末の真実を探る」チラシ封入作業：10/15（水）

- ②ボランティア活動推進部：今後の月例会の予定

- ③事務局：ニュース発送 10/1（水）、事務局部会 10/8（水）9月決算、

- ④広報グループ：楽学ニュース321号、ホームページ 10/1、メルマガ

（6）会員募集

- メルマガ 9月1日号以降会員急募を掲載中、ホームページに「入会のお誘い」掲載中
- あだちサークルフェアで勧誘、NPOフェスティバルで勧誘した→ サークルフェア2024で2名入会
- 大学塾講座で会員募集案内を実施中
- サークルフェア2025のプログラムに会員募集の告知を行う

（7）その他

- 社会教育 10月号 回覧

次回運営委員会 11月4日（火） 15:00から（研4）

以上

生涯学習センター 講座情報

◎講座名：日本の医薬品産業の行方 薬不足や保険適用除外

あだち 100 年大学講座

日 時：12/27（土）午前 10 時 30 分～正午

定 員：40 人（対面）、10 人（オンライン）

受講料：800 円

会 場：足立区生涯学習センター研修室 1（対面）

講 師：坂巻 弘之 氏

一般社団法人 医薬政策企画 P-Cubed

代表理事

内 容：本講座では、「薬の供給不足」という日本の医薬品産業が抱える問題、また政府が目指す「OTC 類似薬の保険適用除外」による我々消費者にとって利点と課題について専門家が分かりやすく解説します。

◎講座名：今や国民病といわれる 慢性腎臓病についての専門医講座

あだち 100 年大学講座

日 時：12/27（土）午後 2 時～3 時 30 分

定 員：50 人（対面）、10 人（オンライン）

受講料：800 円

会 場：足立区生涯学習センター 講堂（対面）

講 師：小川 哲也 氏

東京女子医科大学附属足立医療センター
副院長、教授

内 容：腎臓の働きが健康な人の 6 割未満に低下したり、タンパク尿などの異常が続く状態が「慢性腎臓病」です。腎臓だけでなく、血管系にも影響を及ぼすこともあるこの病気はどんな人が発症しやすいのか、どんな対策・治療法があるのかを知り、健康生活に役立てていただきます。

お申込みは：電話(03-5813-3730) 又は直接窓口
インターネット[近所 de まなびナビ]で検索
イベント・講座情報→講座予約システム



金木犀「秋の風物詩、やさしく甘い花の香り」

令和 7 年 11 月 月例会のご案内

日 時：11 月 19 日(水) 午後 15 時より

内 容：「会員の活動報告」

場 所：生涯学習センター 研修室 4

(ボランティア活動推進部)

楽学インフォメーション

★会合のお知らせ★

- ◎ 運営委員会
11 月 4 日(火) 午後 3 時～4 時 研修室 4
- ◎ 月例会
11 月 19 日(水) 午後 3 時～4 時 研修室 4
- ◎ 学習支援部
11 月 19 日(水) 午後 1 時半～2 時 研修室 4
- ◎ 事務局
11 月 4 日(火) 楽学ニュース発送
11 月 11 日(火) 午後 1 時半～ ワークルーム
- ◎ 広報グループ
メール会議
- ◎ 大学塾講座検討会議
11 月 19 日(水) 午後 2 時～3 時 研修室 4
- ◎ 大学塾講座企画会議
11 月 4 日(火) 午後 2 時～3 時 研修室 4
- ◎ 生涯学習センター 休館日
11 月 10 日(月)

★お問い合わせ&ご意見

- ◎ 「楽学の会」の運営に関するお問合せ
事務局 福田哲郎 電話:090-3207-8444
E-Mail : tefukuda2002@yahoo.co.jp

編集後記

脱炭素化社会に向けて 世界は脱炭素を目指している！②

(321 号より)

地球温暖化によって引き起こされる可能性については、このままの経済活動を続けると地球温暖化がさらに加速し、取り返しのつかない事態に陥るかもしれません。そのため、脱炭素の取り組みが必要とされています。②世界は化学燃料を燃やして得られるエネルギーによって発展してきました。しかし、このままのスピードで化学燃料を消費していると、近い将来には資源がなくなると予想されています。

化学燃料資源の種類は、大きく分けて次の 4 つです。・石油・天然ガス・ウラン・石炭。この 4 つの化学燃料の、それぞれの寿命は、石油 50 年、天然ガス 50 年、ウラン 115 年、石炭 132 年、と予想されています。このように、化学燃料は埋蔵量に限りがあるので、使い続ければいつかはなくなってしまいます。そのため、化学燃料に代わるエネルギー資源を確保することが、より重要な課題となっていました。脱炭素の取り組みのひとつは、温室効果ガスを排出する化学燃料の使用を減らすことです。結果として化学燃料の節約にもつながるため、エネルギー資源の枯渇を防ぐ意味でも脱炭素は重要な取り組みとされています。それが、地球温暖化の原因となる二酸化炭素(CO₂)などの温室効果ガスの排出量を実質ゼロにすることを目指す取り組みです。これには、再生可能エネルギーの導入、省エネルギー、低炭素車の利用、森林保護、さらには個人レベルでの生活習慣の改善など、様々なアプローチが含まれます。主な取組みとして、企業での取り組みでは、再生可能エネルギーの導入：太陽光発電の設置や、再生可能エネルギー由来の電力への切り替えなど。省エネルギーの推進：省エネ設備の導入、工場のプロセス改善など。低炭素技術への投資：EV（電気自動車）への切り替え、低炭素型の製品開発など。排出量の相殺：カーボンオフセットなどを活用する。個人での取り組みでは、再生可能エネルギーの利用：再生可能エネルギーを供給する電力会社への切り替え。節電・省エネ：こまめな消灯、省エネ家電の利用、断熱性の高い住宅にするなど。移動手段の工夫：自家用車を控えて公共交通機関や自転車を利用する。ごみの削減とリサイクル：マイボトル・マイバッグの利用、食品ロスの削減など。環境に配慮した製品の選択などが可能です。

(金子勝治)